

# 大阪インターナショナルチャーチ

2008年4月13日

ダニエル エルリック牧師

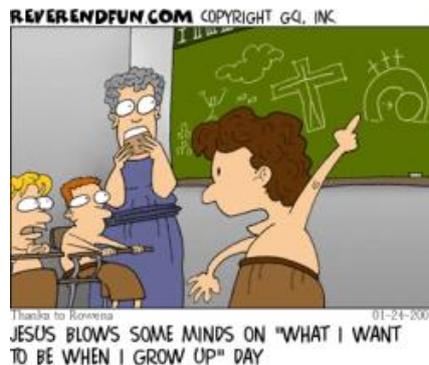
シリーズ : 始まり #13

題 : 神と共に歩む

聖書の箇所 : 創世記 5:1-6:8

## I. 初めに

おはようございます! この Reverend Fun の漫画の中では、イエスは、学校の少年です。かれは、黒板に十字架と空っぽになったお墓をスケッチしました。さて、下の説明文を読んでみましょう。「イエスは、こう言ってみんなを唾然とさせています。『ぼくが大きくなった日にはね、こんな風でありたいよ。』」この漫画は、全てが待ち望むことにあると、伝えています。私たちが今日見ていく聖書の箇所も又、これからやって来る数多くの期待についての御言葉です。今日は、お話することがたくさんあります。さあ、さっそく創世記 5:1-5 を読みましょう。



## II. 教え

創世記 5:1-5 (1) これはアダムの系図の書である。神は人を創造された日、神に似せてこれを造られ、(2) 男と女に創造された。創造の日に、彼らを祝福されて、人と名付けられた。(3) アダムは百三十歳になったとき、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた。アダムはその子をセトと名付けた。(4) アダムは、セトが生まれた後八百年生きて、息子や娘をもうけた。(5) アダムは九百三十年生き、そして死んだ。

これらの御言葉は、アダムとノアに繋がる神の民の家系図を紹介しています。一覧表では、このようになります。ご覧になって分かりますように、リストに載せられているほとんどの人々は、900年以上も生存しました。人々がこれを見るとき、一般的に二つの反対の意見が持ち上がります。一つ目の問題は、たいてい長い寿命のこと。二つ目は、子供が生まれたときの父親の年です。これらの年は、当時の地球上の状態が、今日の状況と大変異なっていたことを示しています。寿命は、ノアの洪水の後、劇的に短くなりました。でも、非常に異なる状況であったとしても、人々は本当に900年以上も生きることができたのでしょうか。

| Name               | Child Born | Age at Death |
|--------------------|------------|--------------|
| Adam (アダム)         | 130        | 930          |
| Seth (セト)          | 105        | 912          |
| Enosh (エノシュ)       | 90         | 905          |
| Kenan (ケナン)        | 70         | 910          |
| Mahalalel (マハラルエル) | 65         | 895          |
| Jared (イエレド)       | 162        | 962          |
| Enoch (エノク)        | 65         | taken        |
| Methuselah (メトシェラ) | 187        | 969          |
| Lamech (レメク)       | 182        | 777          |
| Noah (ノア)          | 500        | 950          |



先週、日本の最もお年寄りの方、山中かくさんが113歳で亡くなられたというニュースを見ました。また、ドミニカの女性で、マ・ポンポさんという方がいらっしゃいます。公的な記録はありませんが、彼女の家族や友達によりますと、彼女が今、128歳だそうです。このように、ある人々は長生きしますが、それにしても900歳もどうでしょう。人間は、900年も生きることができのでしょうか。

聖書は、地球の状態が、ノアの洪水の前と非常に違うことを明らかにしています。特に創世記

7:11にある「天の窓が開かれた」という語句は、洪水の前の地球の大気には、もっと多くの水分があったことを、ほのめかしているかもしれません。もしそうなら、厚い雲の覆いが有害な放射能から保護し、寿命を長くしてくれたかもしれません。ある聖書の学者もまた、長い寿命の説明を可能にするものとして、命の木に目を向けています。人々は、アダムが命の木から一度だけ食べることで、永遠の命を得ることができたんだらうと憶測することがよくあります。けれども、たぶん聖書が言う意味は、実はアダムが規則的に命の木から食べ続ける限り、永遠に生きるであろうということだと思われまます。もしそうでしたら、アダムとエバは、エデンにいる間、命の木から食べ、余っている恩恵が、次の何世代かまで続いたかもしれません。そして、二人がエデンを去った後でさえも、多少の間、長い寿命が与えられたのかもしれません。

これらの学説は多少、憶測に過ぎない部分もありますが、長い寿命が環境と食事の問題に関係していると言えます。現代の科学者も又、人間の命を延ばす方法を研究するとき、遺伝子治療と共に、環境や食事にも目を向けるようになってきています。この分野での数人の科学者は、老化の進行の速度を、劇的にゆるめる可能性について、とても大胆な予測をしています。保守的な科学者でさえも、人々を長く生きさせる方法の研究成果は、着実に進んでいると信じているのです。でも、900年の寿命って、可能でしょうか。私は、それが聖書の中の記録が基となっていると確信します。将来、研究が進んでいくにつれて、極端に長い寿命の可能性の背後に、何か確かな科学的な証拠も見つかるかもしれません。



人々が取り上げる二つ目の反対への答えは、簡単です。もし、健康な900年の寿命が可能であれば、子供を中年で生むこと、500歳で生むことさえ、理にかなっていないわけではありません。また、家系図は、必ずしも第一子の長男を家系図に載せているわけではないことを、私は指摘しておきます。たとえば、私たちは、セトが、確かに第一子ではないことを知っています。このことでも家系図が、第一子の系列に従っていないと分かります。すなわち、ゆくゆくは創世記3:15に預言されていた救い主イエスに至る系列に続いていくのです。

他にも意見がありますが、私たちは、聖書の全体に載せられている家系図が、大切な神学の学びを教えていることに、気付く必要があります。創世記4章でカインの家系図を見たとき、子孫の系図が挙げられていますが、年齢は、載せられていません。カインの子孫も又、長命だったことでしょう。けれども、創世記の著者は、それを記録していません。ただ、セトの子孫だけ、つまり主の名を求めた人々だけが、長い寿命を与えられたのです。これは、主を愛する人々への神の祝福を語っています。神の民は、望み、将来、そして長い命を頂き、また一方、暴力的な生き方に従うカインの子孫は、この人生での不確かな中にあり、将来への望みもありません。



さらに大切なことは、神の家系図は、旧約聖書の残りの部分から、創世記3:15での約束された救い主のイエスに至るまで、ずっと続いているということです。かれらの長生きにもかかわらず、死はセトの子供たちに訪れます。しかし、かれらには、いつも死を打ち破るお方である救い主が来られるという約束がありました。ある人々は、その名前の意味にも、又は家系図の数にさえも、神学的な教えがあることを見つけました。たとえば、聖書の教師、チャック・ミスラーは、創世記5章で、10の名前を訳し、やがて来られるメシアに

**Adam (アダム), Seth (セト), Enosh (エノシュ), Kenan (ケナン), Mahalalel (マハラルエル), Jared (イエレド), Enoch (エノク), Methuselah (メトシェラ), Lamech (レメク), Noah (ノア)**

*“Man (was) appointed mortal sorrow: (but) the blessed God shall come down teaching (that) His death shall bring the despairing comfort.”*

人間は、死すべき悲しみを与えられたが、祝福の神は、降りて御自分の死によって絶望者に慰めを与えると教える。

ついでに預言を構成し、それらを1つの文の中にまとめています。

「人間は、死すべき悲しみを与えられたが、祝福の神は、降りて御自分の死によって絶望者に慰めを与えると教える。」このような解釈は、賛否両論があります。特に、ある名前の意味は、論争的となっていますが、もし、正確な意味がはっきりしなければ、家系図はたぶん、預言的な意味があるように思われます。

さて、様々な異なった意見もありますが、ここで、創世記6:1-2を見てみましょう。「さて、地上に人が増え始め、娘たちが生まれた。神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、おのおの選んだ者を妻にした。」この御言葉で、最も明らかな解釈は、信心深い家系であるセトの息子と、不信心の家系であるカインの娘という異なる民族の結婚を表すものとして、それを理解することです。でもすぐに、この解釈が私たちに難しい質問を投げかけていることが分かります。

創世記6:3は、こう伝えています。「主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」こうして、人の一生は百二十年となった。」御言葉は、2つの解釈があります。その一つは、個々の寿命を120年に短くすることを表しているものとして理解することです。もう一つは、ひとまとめて人類すべてを表すものとして見ることです。その場合、ノアの洪水が120年後に来るといふ預言を表します。どちらの解釈にしても、それは、悪人への神の審判を語っています。

これは、創世記6:4へと導かれます。「当時もその後も、地上にはネフィリムがいた。これは、神の子らが人の娘たちのところに入って産ませた者であり、大昔の名高い英雄たちであった。」これは、謎に包まれた御言葉です。いったい、だれがネフィリムなのでしょう。もし、神の子と人の娘の間の関係が、ただ信仰心の深い男と、不信心な女との異なる民族の結婚を表しているなら、なぜ、かれらの子供たちは、みんなの間で特別に分けられた者となるのでしょうか。これは、謎ですね。この謎を解こうとして、ある聖書の解説者たちは、次のような答えを提案しています。ここでの「神の子」というのは、天使を表しているのかもしれないと。時々、ある人々は、これを他の神秘的な御言葉で表すこともあります。ペテロの手紙二2:4-5です。「神は、罪を犯した天使たちを容赦せず、暗闇という縄で縛って地獄に引き渡し、裁きのために閉じ込められました。また、神は昔の人々を容赦しないで、不信心な者たちの世界に洪水を引き起こし、義を説いていたノアたち八人を保護なさったのです。」これらの天使の罪とは、どんなものだったのでしょうか。分かりません。けれども、もし、創世記6:4にある「神の子」と呼ばれる者と、これらの天使と同じなら、両方ともに、謎に包まれた答えを与えることになるでしょう。それで皆さんは、時々この学説を聞かれるかもしれませんが、しかし、注意しなければなりません。なぜなら、私たちは天使と人間に関わるこのような親密な関係があり得るかどうか、知る由もないからです。ですから、これらの御言葉は、神が明らかにしてくださるまで、謎のままに心に留めておくのが一番良いのかもしれませんが。

これは、とても厳しい警告を私たちに与えてくれています。神は、古代の世においては、罪から免れさせようとは、なさいませんでした。人々の罪が、あまりにも悪くなった時、神は、その人々を裁き、ノアの洪水を引き起こして彼らを撲滅されてしまったのです。創世記6:5-7には、こうあります。

(5) 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、(6) 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。(7) 主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」

人々の罪深さのひどさは、主に大変な痛みと悲しみを与えました。そこで、主は大洪水を起こされ、古代の世を滅亡させてしまわれたのです。今から見ていきますように、エノクもノアも人々に教え導き、預言していたのですが、それでもカインの子供たちは、悔い改めませんでした。とうとう神は洪水を起こされ、



かれらは溺れてしまいました。でも、かれらが皆、地獄へ行ってしまったとみなすのは、間違いだろうと思われまゝ。それどころか、洪水が起こったことは、人々にただ悔い改めをもたらすためだったかもしれません。叩きつけるような雨と、見る見るうちに増す水に直面し、人々は、どちらかを選択しなければなりません。審判しようとなさる神を呪うか、又は、最後に自分の罪を悔い改め、神に哀れみを請うて叫ぶかのどちらかです。皆さん、ここで分かっていたいただきたいと思えます。神は、悪い人々を裁こうとされていることを。けれども、聖書全体は、神の審判が私たちに悔い改めをもたらすために計画されたものであることを教えていると思うのです。洪水は、人々に悔い改めをもたらす力を持つただ一つの事だったかもしれません。はっきりと分かりませんが、もしかしたら私たちは、ちょうど洪水の時に悔い改めた多くの人々に、天国で会えるかもしれません。この洪水による預言の警告を深刻に捉え、納得し悔い改めた人々に。

しかし、洪水が起こる前に、主を求める選択をした何人かの人々もいたのです。創世記 5 : 21 - 24 は、このように伝えています。エノクは六十五歳になったとき、メトシェラをもうけた。エノクは、メトシェラが生まれた後、三百年神と共に歩み、息子や娘をもうけた。エノクは三百六十五年生きた。エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。

エノクは、神とともに歩みました。それは、エノクが、神と近い関係を持ち、神を信頼し、すべてのことにおいて神に従い、神との交わりがあったという意味です。それから、ある日、神がエノクを取られたのです。エノクが死んだのではないことに気付いてください。聖書の中で、死ぬことなく神の所へ行った人が、2 人いますが、エノクはその初めの 1 人です。もう一人の人は、エリアです。(列王記下 2 : 11)

エノクは、ひどく悪い人々を見て、悔い改めるよう警告しました。ユダの手紙 14-15 は、かれの説教の例を与えてくれています。「アダムから数えて七代目に当たるエノクも、彼らについてこう預言しました。『見よ、主は数知れない聖なる者たちを引き連れて来られる。それは、すべての人を裁くため、また不信心な生き方をした者たちのすべての不信心な行い、および、不信心な罪人が主に対して口にしたすべての暴言について皆を責めるためである。』」

神と共に歩んだもう一人の人は、ノアでした。創世記 6 : 8 は、ノアが彼の周りにいる悪い人々とは、違っていたことを語っています。こうあります。「しかし、ノアは主の好意を得た。」と。来週、私たちは創世記 6 : 9 で、ノアもまた、神と共に歩んだ人であることを見ていきます。エノクやノアが住んでいた時世、彼らは、神を否定する人々に取り囲まれていましたが、かれらはより良い道を選びました。そう、彼らは神と共に歩む方を選んだのです。

### III.まとめ

先週、私たちは、人々が選択したことを見てきました。かれらは、カインの町に向かうこともできましたし、あるいは主の名を訪ねて、セトの家族に加わることもできました。カインの町は、おそらく厚い塀で守られ、進んだ音楽や科学技術があったことでしょう。それは、お金の価値、喜び、そして暴力から守るための個人的な防衛に対する一つの考え方を表しています。一方、セトの子供たちは、大変違った価値観がありました。つまり、かれらは、主の名を呼び求めたのです。今日、私たちも、よく似た選択に直面しています。一般の人々は、お金、娯楽そして安泰に暮らすことを追い求めます。私たちは、スピードを落とし、慎重に考えない限り、惑わされてしまい、それらについて行ってしまふことでしょう。けれども、もし、私たちが、神を愛すれば、裁きに導かれる太い道から出て、命へ導かれる狭い小道へ入って行く必要があるでしょう。群衆は、よく間違えます。群衆に従っていくと、主との愛する関係に導かれられないのです。もし、主との交わりを望まれるのでしたら、異なる道を取らなければなりません。ちょうど、エノクやノアのように、主と共に歩む必要があるのです。



では、エノクやノアと、かれらの周りにいた不信心な人々との基本的な違いとは、何でしょう。

それは、信仰です。かれらは、神と共に歩み、義を教え導いたのです。なぜなら、かれらは、神に、そして神の愛において、信仰を持っていたからです。

ヘブライの手紙 11 : 5-7 では、彼らの信仰に対して賛美しています。「信仰によって、エノクは死を経験しないように、天に移されました。神が彼を移されたので、見えなくなったのです。移される前に、神に喜ばれていたことが証明されていたからです。信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。」エノクとノアは、信仰がありました。さて、私たちはどうでしょう。信仰がありますか。神と神の愛を信頼する選択をされていますか。今日、そして日々、信仰の選択をしていきましょう。

今日の聖書の箇所には、やがて来られるメシア、それにやがて来る洪水の裁きについての予想がぎっしり詰まっています。これらの箇所のある事柄については、理解しがたい所もありますが、全体を通して伝えようとするのは、大変はっきりしています。周りの人々が、何をしようと、エノクとノアは、信仰によって神と共に義の道を歩んで行ったことです。さあ、祈りましょう。

#### IV. 結びの祈り